

げんき No.59

カエル

兵庫県立こども病院
ニュースレター



平成29年(2017) 10月1日

お母さん・お父さんに知ってほしいワクチンの話

救急総合診療科(総診) 倉橋幸也

【ワクチン接種の意義は何ですか?】

VPD(Vaccine Preventable Diseaseの頭文字をとっています。)という言葉はきいたことがありますか?日本語にすると「ワクチンで防ぐことができる病気」です。世の中には数多くの感染症がありますが、重篤な後遺症を残したり死亡したりするものが一部存在します。それらの中にはウイルス感染、細菌感染ともに存在しますが、ウイルス感染ではそもそも対症療法しかなく(つまり有効な治療法がなく)、細菌感染ではたとえ適切に抗菌薬を使用したとしても後遺症を残してしまう場合があります。重症感染症は「治療する」だけでは片手落ちで、「予防する」ことが大切です。ワクチン効果の一例は図1をご覧ください。乳幼児の細菌性髄膜炎はめったにみない病気になりつつあります。

【今流行中していない病気の予防接種は必要なのでしょうか?】

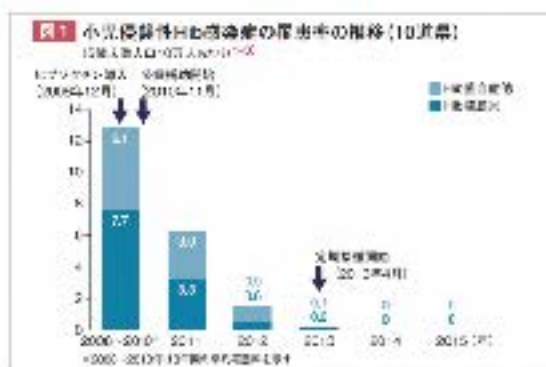
今VPDが流行していないのは、同じ地域で生活されている保育園や幼稚園、小学校に通う先輩たちが予防接種をしているからです。流行していないからといってワクチン接種をしないようになると、瞬く間に再流行してしまうということは歴史が証明しています。生後数か月で赤ちゃんを保育所にあずけて働きに出るご家庭も数多くあると思いますが、必要な予防接種を受ける前から集団生活を開始する赤ちゃんが感染症の脅威から守られるかどうかは地域の予防接種率次第です。大切なお子さんが知

らず知らずのうちに社会から守られていることを認識し、次に産まれてくる赤ちゃんたちを守り続けるリレーのバトンをぜひ一緒につないでいきましょう。

【特殊な治療をしている場合は予防接種を受けることができますか?】

ステロイドや免疫抑制剤を長期間にわたり内服している、輸血やガンマグロブリン投与がされているこどもたちは一定期間生ワクチンの接種を控えておくのが望ましいです。またワクチン接種を受けることができないこどももいます。ぜひ、かかりつけ医や当院予防接種センターに相談してください。(毎週火曜日14-16時に相談を受けています。詳細は兵庫県立こども病院のホームページ内で予防接種センターをご検索ください。)

以上です。少しでもワクチンの重要性をご理解いただければ幸いです。



Vaccine Digest 第13号 鹿児島大学大学院医学総合研究科 微生物学分野 教授 西 藤一郎先生からの引用です



ふれあい看護体験



「ふれあい看護体験」とは、市民のために保健医療福祉施設がドアを開き、見学や簡単な看護体験、関係者との交流などを行うイベントで、病院・医療施設がそれぞれのプログラムで実施しています。当院では高校生を対象に受け入れ、病棟でこども達とふれあい看護体験を行い、この経験を通して今後の進学や職業の選択に活かして頂いています。

2017年度参加希望理由より

高校2年 松原 鈴奈さん

私は生まれた頃から心臓疾患と内科疾患などを患っており、兵庫県立こども病院で手術を受け毎年定期検査をしています。小学校2年生の時に心臓疾患のため手術を受けることになり、私は兵庫県立こども病院で入院することになったのですが、周りには友人も両親もいすとても寂しくて夜も眠れませんでした。ですが、そんな私に看護師の方が一緒に遊んでくれたり、お話をしていただいたりして、私は眠れなかった夜も眠れるようになったり、友人が出来たりと看護師の方のおかげで入院生活が苦にならなくなりました。こうした出来事があった看護師の方々は私にとってヒーローのような存在でありその面影は大きく、高校2年生になった今でもその看護師の方の存在はとても大きいです。

私は将来、私を支えてくださった看護師の方々と同じように私も看護師として働きたいとずっと思ってきました。私のように入院や病院で不安なこども達の気持ちを楽にできるそんな看護師の方々の下に働く体験をしたいと思い参加することにしました。

参加後の感想文より

ふれあい看護体験で最初に感じたことは、病気で入院している子供たちの笑顔が多いことです。みんな入院をして不安に思っているのになぜ笑顔なのかは看護師の方たちと話をしているうちにわかりました。それは看護師さんが患者さんたちの側にいて、不安を取り除いてあげているんだと思ったからです。改めて看護師の仕事は素晴らしいと思い、私もいつかそんな素敵な看護師になりたいと強く思いました。

今回は私達スタッフの励みになる文章を頂きありがとうございました。

同じ職業を目指していると聞きとても嬉しいです。今回の病院体験より夢を現実にし、将来すてきな看護師になってこども達のためにこども病院に帰ってきて下さい。こども達と共に楽しみにお待ちしています。



医療的ケア児と共に生きる



足立 里美

今から8年前、娘はこども病院で生まれました。出生直後から呼吸状態が悪く、つらそうに息をする娘の様子に、健康な身体に産んでやれなかった自分をどれほど責めたか分かりません。そんな頃、医師から気管切開を勧められました。生きるためには必要だと分かっているにもかかわらず「娘のため」と苦渋の決断をしました。

気管切開をしたものの、24時間気の抜く暇のない看護と医療的ケアの大変さ、まだ幼かった兄弟児の世話を同時にやっていたのかという不安、仕事を手放さなければならない悲しさ、これまでの生活が崩れていくのではないかと、このように押しつぶされそうな日々がありました。

そんな時、先輩ママから「気管切開していても、家族で出かけたり、就園就学ができた、楽しい家族生活が送れるようになる。」と励ましてもらいましたが、呼吸器を手放せない当時の娘の状況からは、それは夢物語のように聞こえました。

あれから数年を経て、今なら私も同じことが言えます。「娘は、今も絶えず呼吸器が必要です。



(画:足立 美樹)

でも呼吸器をつけて地域の幼稚園にも小学校にも行っています。大変なこともあるけれど、毎日笑顔いっぱい暮らしています」と。

子供は日々成長します。今は苦しくとも、半年、1年と成長を重ねるたびに「強くなった」と実感できます。そして気管切開のおかげで、安心して家族と一緒に暮らしていること、それが「幸せ」なんだと気づく日が必ず来ます。

こども病院は、日本有数のスペシャリスト集団です。苦しい時は、声に出してみてください。それを乗り越える知恵とパワーが見つかるはずです。一緒に乗り越えていきましょう!!

多数傷病者受け入れ訓練を実施しました7月29日(土)



高速道路で事故があり小児受傷者10名を受け入れる想定で訓練を行いました。救急センターのみでは対応が困難と判断し、通常の診療業務を中止して応援医療スタッフの招集を行う非常事態を宣言。搬送患者のトリアージ(重症度判定による優先順位付け)を実施し、診察、検査、手術などの手順を確認し、問題点や改善事項を洗い出しました。

このような大事故の際には、当院は小児救命救急センター、県立病院としての社会的責任からも、多数の患者受け入れを要請されます。

一般患者さんには外来診察や予定手術の中止、病室の移動をお願いすることがあります。その際には事情をご理解の上、ご協力をお願いします。

今回は外部災害の想定での訓練でしたが、大震災や風水害、大停電など病院が被災する想定防災訓練、火災を想定しての消防・避難訓練なども随時行っています。





季節の食事と人気メニュー

栄養管理課 職員

この夏、初めて7階病棟プレイルームで開催したお祭りでは、「わたあめ」と、「ポテトフライ」を作りました。目の前で大きくなる「わたあめ」をこども達はキラキラした瞳で見っていました。

楽しそうにゲームをして、「わたあめ」を食べている姿を見て、私達も元気をもらいました。

人気メニューといえば、ハンバーガー！入院中お店さながらの味を楽しめます。こども病院の茶碗蒸しには2種類あるのは知っていましたか？

「アナゴの旨みがたっぷり入った茶碗蒸し」と「鶏肉と椎茸のだし汁が決め手の茶碗蒸し」どちらも美味です。レシピが必要な方は栄養管理課まで！



Concept コンセプト

● **基本理念** 周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

- **基本方針**
1. 患者の権利を尊重した医療の実践
 2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
 3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
 4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
 5. 親とこどもが一体となった治療の推進
 6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
 7. 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
 8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



編集後記

みなさまのご支援により、「げんきカエル」10月号を無事に発行することができました。幼い頃の病気やケガをきっかけに医療従事者を目指す方がおられる現実・・・、ふれあい体験にあったようなヒーロー漫画になりたい!!! 「げんきカエル」は、一人でも多くの方々に手にとって読んで頂けるよう、病院ホームページからもアクセスすることができます。ご意見ご要望などございましたら広報委員にお聞かせください。

編集委員長：大津雅秀
 編集委員：岡岡繁志 谷本江利子
 橋本ひとみ 新井隆浩
 山口智達 坂田亮介
 笠木憲一 井口秀子
 山本正子 沼田惠作
 大前隆広 近藤圭敬
 中嶋元樹

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院
 HYOGO PREFECTURAL
 KOBE
 CHILDREN'S
 HOSPITAL

〒650-0047
 神戸市中央区港南南町1丁目6-7
 TEL 078-945-7300
 FAX 078-302-1023
<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>
 e-mail: info_kch@hp.pref.hyogo.jp